

父・向井信夫の思い出

この度、貴学が所蔵される、向井信夫文庫の目録刊行に当たり、図書館担当者各位、そしてご指導頂いた板坂則子教授のご努力に、亡き父に代わり御礼申しあげます。

父は、戦時中、当時の中国にて国策会社に勤務の後、陸軍に召集、敗戦時は旧ソ連の捕虜となり、昭和 22 年に復員しました。

父の和本の収集・研究は昭和 25 年頃からと聞いております。私が物心付いた頃は、父が書齋として使用していた 8 畳間の 2 畳分に和本が積み上がり、地震の時など大きな音を立てて崩れることしばしばで、時には人目を避けるかのように、玄関脇の庭木の陰に古書の包みやレコード盤の束が置かれていたこともありました。

昭和 38 年、父の念願の書齋・書庫の工事が始まり、その時の父の喜びようは忘れられません。完成した書庫に寝具・ソファを持ち込み、教科書会社の勤務から戻ると、食事・睡眠も書齋で、古書の研究に没頭しておりました。東京オリンピックの前年のことで、あれから 50 年以上経ちました。

その後、教科書会社の子会社にて取締役を拝命し、退職後は好きな江戸後期の町人文化の研究に没頭し、平成 5 年 11 月 6 日に 77 歳にて亡くなりました。

この目録が後進の方々のお役に立つことを、亡き父と共に心から祈念いたします。

平成 28 年 9 月

向井 純一